

2017年3月期 決算説明会 Q&A サマリ

2017年5月12日時点

【FY16 業績について】

Q エンジニアリング効率化施策によるコストダウンの詳細について確認したい。

A セントラルエンジニアリングセンター（以下、CEC）の活用が当初予想より進んでいる。CECのリソースは、グローバルで共通活用ができるため、稼働率や作業標準化の観点から、コスト効率が高い。

Q 4Qで受注が増加した理由を確認したい。

A 国内、海外共に好調であったが、大口JOBの受注が寄与している。4Qで想定していた案件を順調に受注できたこと、また、停滞していたマーケットが少し動き出した印象である。

Q 北米の事業環境について確認したい。

A 市況の影響や当社の販売体制等の問題からここ数年受注が落ち込んでいたが、FY16下期あたりから、体制の立て直しに注力すると共に、市況が若干回復しつつある。

Q 3、4年前と比較して、お客様の投資の内容に違いが出てきているか確認したい。

A 原油価格の水準が戻っていない中、新規プロジェクトへの投資が抑制されている一方で、お客様は既存設備のスループットをいかに高めていくか、という合理化や効率化等の観点で投資を行っていると考えている。

Q 競合企業との競争環境について確認したい。

A 価格面での競争はケースバイケースであるが、プロジェクトの案件が減っている中で競争が厳しくなっていることは事実である。既存の制御システムのみならず、生産管理（MES）や基幹業務システム（ERP）等へ事業領域を拡大していくことにより、競争優位を確立していきたいと考えている。

【FY17 業績予想について】

Q FY17の受注動向について確認したい。

A まだら模様ではあるが、お客様の中には、コスト構造改革が進んだことにより、投資意欲が出始めているところもある。3、4年前のような高い伸長率は期待していないが、ここ1、2年の厳しい局面から底を打ったという見方をしている。

Q 受注目標を4,000億円としたことで、マージンをどのように想定しているか確認したい。

A 競争が厳しいものの、現時点で大きく打撃を受けている訳ではない。コストダウンをしながらマージンをキープしていく。

Q 受注の回復が従来の説明よりも早くなっている背景について確認したい。

A お客様の投資動向が急激に回復している訳ではなく、中東やロシアなど、比較的堅調な地域にリソースを充てていくことにより受注が獲得できると考えている。

Q 買収の影響を除くと、売上の伸びに対して利益の伸びが少ないことの背景について確認したい。

A 制御については、価格圧力が厳しい中で、計画をやや保守的に策定している。一方で、計測および航機その他事業については、厳しい環境下でややハードルの高いチャレンジングな利益改善を目標としているなかで、全社の数字は確実に達成していきたい

Q FY17 売上高に対する為替の影響について確認したい。

A 86 億円の増収について、内訳として、為替の押し上げ効果 51 億円と実質増収 35 億円を見込んでいる。

* 5 月 11 日の決算説明会の場では、売上における為替の押し上げ効果を「49 億円」と説明しましたが、「51 億円」の誤りでした。お詫びいたしますとともに訂正いたします。なお、ご参考までに、全社および制御事業の受注・売上・営業利益における為替影響額は以下のとおりです。

<為替影響額>

	受注	売上	営業利益
全社	53 億円	51 億円	9 億円
制御事業	52 億円	50 億円	7 億円

【KBC グループについて】

Q 事業環境の変化と業績の推移について確認したい。

A 景気の悪化がコンサルタントビジネスの受注に影響を与えている。KBC と横河で対象のお客様が異なる部分を相互に補うことや、クラウドを使用した新商品の活用等によるシナジーを早期に実現し、新たなお客様や新たなビジネスを創出していきたい。

<業績推移>

	受注	売上	営業利益
FY16 実績	82 億円	103 億円	▲4 億円
FY17 予想	90 億円	100 億円	9 億円

Q FY17 の利益改善の要因について確認したい。

A FY16 後半に売上を予定していた JOB が FY17 にずれ込んだことが大きい。また、横河と KBC が一緒になってお客様へ入っていく体制が徐々に整ってきており、お客様の評価も得られてきている。それらの点からリカバーは可能と考えている。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。

横河電機株式会社 IR 部
©Yokogawa Electric Corporation